

平成28年度 学校マネジメントシート

1 目指す姿

(1)	目指す学校像	○ 生徒・教職員が「誇り」をもち、保護者・地域から「信頼」される学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○ 生徒一人ひとりの自己指導能力(そのとき、その場で、どのような行動が適切であるか、自分で判断し、決定して実行する能力)が高まっている。
	ありたい 教職員像	○ 授業改善に取り組み、わかる授業を展開し、生徒の学力を伸ばさせる教職員。 ○ 共通認識をもち、それぞれの個性を生かしつつ組織力を高め、生徒に向き合い、きめ細かい指導を行う教職員集団。

2 現状認識

(1)	学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 充実した学校生活とクラブ活動の活性化、進路希望の実現を望んでいる。 <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が安全安心な高校生活を送るとともに、進路希望の実現を期待している。 <p><地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の公共心とマナーが育成され、専門学科としての専門性や特色を生かして地域の活性化に貢献してほしいと期待している。 	
(2)	連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		<p><家庭></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安全・安心な教育環境の中で、心身ともに健康な生徒を育成してほしい。 ○ 進路希望を実現できるよう支援してほしい。 <p><中学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学力面、生徒指導面での中高の連携をすべての教職員レベルで図ってほしい。 ○ 外国人生徒の指導について、一層の連携を図りたい。 <p><地域社会></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 関係機関、事業所との連携・協力を進めてほしい。 ○ 挨拶・身だしなみ等は地域の学校評価の大きなポイントなので、一層指導を推進してほしい。 	<p><家庭></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本校教育方針への理解と協力、家庭での基本的な生活習慣の教育を期待したい。 <p><中学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎学力の向上、継続的な指導のための個々の生徒の情報共有を期待したい。 <p><地域社会></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本校の専門性や特色を理解し、生徒の活躍の場を与えてほしい。
(3)	前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> ○ あいさつや身だしなみ等、生徒たちの「見た目」は学校評価の大きなポイントである。中学校側も松商教職員の努力をよく理解している。 ○ 就職状況がいいときも企業訪問等を丁寧に行うとともに学校側担当者が交代する場合もノウハウを引継ぎ、信頼関係を維持・発展させ、生徒の進路保障に生かして欲しい。 ○ 「学習成果発表会」の発表内容や元担任の卒業生への関わり等から、教職員が生徒と良好な関係を築いているように感じている。 ○ アンケートに見える授業理解の肯定的評価が6割程度であることは、大きな課題であろう。学校全体での授業改善に期待する。 	

(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単位制高校としての利点を生かし、少人数や習熟度講座を編成し、学習者へのきめ細かな指導を行い、希望進路の実現を図っている。 ○ 普通科志向の風潮の中、専門学科が敬遠され、募集定数の確保が難しい学科もある。学科の特色や強みを生かした教育活動を展開し、地域に魅力を発信することが大切である。 ○ 専門教科に比べ、一般教科の学力定着・向上に課題がある。生徒が基礎基本の学力の定着を図ることができるよう、家庭学習など自律的に学習する習慣を身につけることが重要である。 ○ 商業や英語関係の高度な資格取得に積極的に取り組み、大きな実績を上げている。 ○ いじめの早期発見に努め、生徒が望ましい人権意識をもち、安全・安心な学校生活を送ることができるよう学校全体で取り組む必要がある。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 商業教育の拠点校として、高い専門性を有した教職員が配置され、スペシャリストを育成するノウハウを備えている。 ○ 伝統ある地域の商業高校として、地元産業界等と強いネットワークで結ばれている。 ○ 生徒が落ち着きを取り戻し、学習活動や部活動、挨拶を始めとする礼儀や身なりなど地域からも一定の評価を受けるようになってきている。今後も一層、生徒の社会的自立に向け基本的な生活習慣や社会性を身につけさせる取組を向上させる必要がある。 ○ 生徒の持てる力を一層伸ばすため、教職員相互の授業研究を行うなど授業改善の取組を推進することが求められる。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業改善に取り組み、わかる授業を展開し、生徒の学力を伸長させる。 ○ 生徒の自己指導能力を高める。 ○ 生徒が自己実現に向けた進路決定ができるようにする。 ○ 商業や英語関係の高度な資格取得に一層取り組み、進路決定につなげていく。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒にわかる授業を展開し、学力向上につなげるため、全教職員が連携して授業改善を推進する。 ○ 基本的な生活習慣や社会的規律・礼儀を身につけ、心身ともに健康な生徒を育成する。 ○ 外部の関係機関と連携して教育活動を行うことで、生徒が多様に学ぶ機会を保障するとともに、地域から信頼される学校づくりを推進する。 ○ 会議の精選や校務分掌等の業務の整理・見直しを行うとともに、年次休暇、特別休暇の取得を奨励し、教職員の総勤務時間の縮減と健康増進を図ることにより、より質の高い教育を目指すとともに、教職員の一層の資質向上に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	備考
教育活動の充実	(1) 2 学期末に保護者対象アンケートを実施し、分析・考察を行い、保護者に返すとともに本校教育活動に活かす。	◎
学習指導の充実	(1) 学習時間調査の実施 【目標】 家庭学習の大切さを意識づけ学習習慣の定着を図る。 【取組内容】 <ul style="list-style-type: none"> ① 学習時間調査シートを使い、生徒に一日の生活時間を1週間記録させる。 ② 1週間後、1日当たりの家庭学習時間の平均を記入させ、シートを回収する。 	

	<p>③ 生徒の生活時間を診断し、学習時間を確保するためのアドバイスをするなど、個別面談での材料として活用する。</p> <p>④ クラス全員の家庭学習時間を集約し、生徒個別目標やクラス目標を設定してもよい。</p> <p>【活動指標】 年度末に教員の自己評価で、実施したクラス数を 50%以上にする。</p> <p>【成果指標】 生徒の学習時間を集約で、1日の家庭学習時間が1時間以上の生徒の割合を 100%にする。</p>	
<p>授業改善の推進</p>	<p>(1)いつもの授業にひと工夫</p> <p>【目標】 すべての教員が自主的に授業改善を行い、そのノウハウを共有する。</p> <p>【取組内容】</p> <p>① 年度初めにすべての教員が、授業改善のための工夫、アイデアを一つ以上設定し、授業改善設定シートに記入する。改善の工夫は新規に行うものだけでなく、すでに行っていることの継続でも可。複数で担当する場合は共同での設定も可。年度途中の設定も可。</p> <p>② 授業改善設定シートはデータベースに登録し、全教員で共有する。</p> <p>③ 授業で実施する。</p> <p>④ 年度末に自己評価し授業改善評価シートに記入する。結果をデータベースに登録し、ノウハウを共有する。</p> <p>⑤ 次年度は新たな改善策を設定するか、自身の改善策を改良するか、あるいは共有された改善策を利用する。</p> <p>【活動指標】 設定された改善の工夫に対して、年度末の自己評価で、次の 3 点がすべて評価される。</p> <p>① 実施の状況(できた、できなかった、途中で中止した)</p> <p>② 成果の有無(効果があった、効果がなかった)</p> <p>③ 改善策の分類(継続・棄却・修正継続)</p> <p>【成果指標】</p> <p>① 教員による上記の自己評価のうち②については、生徒による授業評価など担当者が実施してもよい。</p> <p>② 生徒による「学校生活のアンケート」で、「授業の理解度」の肯定意見を 80%以上、「質問ができる雰囲気」の肯定意見を 70%以上にする。</p>	<p>◎</p>
<p>進路指導 (キャリア教育)の充実</p>	<p>(1)3年生の進路希望を実現するために、次の取組を充実する。</p> <p>①早期の企業訪問を実施し、企業情報を生徒に的確に伝える。</p> <p>②職員全体での面接指導を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>③11月に校長面談、1月に進路講話を実施することにより、社会人になることへの自覚・意識をしっかりと持つようにする。</p> <p>(2)1、2年生の進路に対する意識と学力の向上を図るために、次の取組を充実する、</p> <p>①校内実力テストについての指導を充実させる。</p> <p>②外部講師を招いた進路講話・進路ガイダンスを実施する。</p>	<p>◎</p>

生徒指導の充実	<p>(1) 丁寧な頭髪服装指導や着こなし講座の実施により自発的な「見た目」向上の意識付けをはかる。</p> <p>【活動指標】 頭髪服装指導日までに十分な準備のできる生徒、日ごろから端正な頭髪服装を心がける生徒を増やすため啓発に力を入れる(講話・通信等)。</p> <p>【成果指標】 指導での一発合格生徒の昨年比増。</p>	◎
生徒会活動の充実	<p>(1) 生徒主体で生徒会行事・企画を運営していく。</p> <p>(2) クラブ活動の活性化に取り組む。</p> <p>(3) エコキャップ回収・自転車ツーロック運動・地域清掃等、環境に関する活動の活性化に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 生徒が主体で各行事(体育祭・文化祭・クラスマッチ・壮行会等)を運営し、すべての生徒が楽しんで思い出に残るような行事を計画・実行し、行事ごとにアンケートを実施する。</p> <p>② 生徒会誌「松籟」や学習成果発表会等で部活動成績等の紹介を行う。</p> <p>③ クラス対抗エコキャップコンクールの実施(1学期)</p> <p>④ 自転車啓蒙活動(昨年度のツーロックを含めた活動)</p> <p>⑤ 地域に貢献する活動を行う(ボランティア活動)</p> <p>【成果指標】</p> <p>① エコキャップ回収:10,000個を目標。</p> <p>② 自転車交通ルールの徹底・管理及び乗車マナーの意識調査の実施。安全教育の推進を図る。</p>	◎ ◎ ※
保健指導の充実	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立と健康への理解を深め、疾病の予防に努めさせる。</p> <p>(2) こころの自己管理能力を高めさせ、望ましい人間関係を作らせる。</p> <p>(3) 男女の特性を理解させ、健全な交際のあり方について理解を深めさせる。</p> <p>(4) 健康で安全な環境づくりと環境美化に努めさせる。</p>	◎
人権教育の推進	<p>(1) 学校生活の様々な場面・側面を通じて人権意識を育み、周囲にある課題に主体的に気づいて取り組み、自立した行動を選択できる社会的技能を持った生徒を育成する。</p> <p>(2) 人権教育推進計画に基づき、HRや教科学習、講演などにおいて人権尊重の精神を培う。</p> <p>(3) 近隣の小・中学校と積極的に連携をはかり、出前授業等の実践的な機会を通じて他者を理解・尊重する姿勢を育む。</p>	◎ ※ ◎
図書館利用教育	<p>(1) 学校図書館の利用を通して、公共図書館も上手く利用することができるようにマナー指導を行う。</p> <p>(2) 図書委員会の活動を定着させ、魅力的な学校図書館を目指す。</p> <p>【活動指標】 オリエンテーション(新入生対象)の実施。図書委員会作成の「図書館通信」の発行。</p> <p>【成果指標】 必要に応じたマナー指導(随時)。図書委員会発行「図書館通信」(年5回程度)</p>	※ ◎

学習指導の改善及びキャリア教育の充実	〈情報ビジネス科〉	◎
	(1)「簿記」の教育課程を再考し、「財務会計Ⅰ」で実施している習熟別学習で、生徒個々のレベルにあった目標をより達成させられるように改善する。 (2)専門学校との高専連携2年目として、より効果的な連携方法を模索し、生徒への還元に努める。	
	〈情報システム科〉	◎
	(1)サマースクール、ウインタースクールにより情報技術に関する基礎的、基本的な知識と技術の定着をはかり、高度な資格試験合格を目指す。 (2)学習した知識を生かすため、外部教育力を導入するなど生徒のスキルアップに努める。	※
	〈国際教養科〉	◎
	(1)実用英語検定及び全商英語検定の資格取得、TOEIC のスコアを有効活用し、進路選択の一助にするため、授業改善に教科一丸で取り組み(授業見学や先進校視察等)、課外授業や個別指導においても積極的に生徒の支援を行う。 (2)本校生徒が地域の小学校に出向き、英語指導を行うことにより、児童たちに「英語学習の楽しさ」を教えるとともに、英語を学ぶ楽しさを共有する。	◎

(2) 学校運営等

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	備考
総務業務の改善	(1)業務分担の明確化および業務のスケジュール化を図り、進捗管理を行う。 (2)分掌、学年、教科、事務と密接な連携を図り、共通理解のもと、円滑な教育活動の推進に努める。	◎ ※
学校教育活動の広報	(3)PTA 総会、PTA 役員会等を通じて、PTA の密接な連携を図る。 (4)オープンスクール・学校説明会・授業公開・学習成果発表会を実施する。 (5)学校 HP の更新を随時進め、最新の情報提供を行う。 (6)携帯メール配信システムを有効活用し、緊急連絡体制の整備を図るとともに、本校教育活動の広報に活用する。	※ ※
授業改善の取組	(1)授業の定刻開始 【目標】 教員自身が授業時間を守ることで、生徒に授業の大切さを意識させるとともに、授業にメリハリをつける。 【取組内容】 ① 授業開始のチャイムと同時に授業を開始する。 ② 授業終了のチャイムと同時に授業を終了する。 【活動指標】 年度末に行う教員の自己評価により、突発的な事態を除いて達成度を100%にする。	◎
	(2)いつもの授業にひと工夫 【目標】 すべての教員が自主的に授業改善を行い、そのノウハウを共有する。 【取組内容】 ① 年度初めにすべての教員が、授業改善のための工夫、アイデアを一つ以上設定	◎

	<p>し、授業改善設定シートに記入する。改善の工夫は新規に行うものだけでなく、すでに行っていることの継続でも可。複数で担当する場合は共同での設定も可。年度途中の設定も可。</p> <p>② 授業改善設定シートはデータベースに登録し、全教員で共有する。</p> <p>③ 授業で実施する。</p> <p>④ 年度末に自己評価し授業改善評価シートに記入する。結果をデータベースに登録し、ノウハウを共有する。</p> <p>⑤ 次年度は新たな改善策を設定するか、自身の改善策を改良するか、あるいは共有された改善策を利用する。</p> <p>【活動指標】 設定された改善の工夫に対して、年度末の自己評価で、次の3点がすべて評価される。</p> <p>① 実施の状況(できた、できなかった、途中で中止した)</p> <p>② 成果の有無(効果があった、効果がなかった)</p> <p>③ 改善策の分類(継続・棄却・修正継続)</p> <p>【成果指標】</p> <p>①教員による上記の自己評価のうち②については、生徒による授業評価など担当者が実施してもよい。</p> <p>②生徒による「学校生活のアンケート」で、「授業の理解度」の肯定意見を80%以上、「質問ができる雰囲気」の肯定意見を70%以上にする。</p>	
進路指導体制の充実	(1)6、9、10月に職員全体での面接指導を行う。	◎
保護者への情報発信	(2)外部講師を招いて、「推薦文の書き方」についての教員向けの講演を実施する。 (3)入学式後に保護者への進路説明を行う。 (4)総務部と連携し、PTA総会後に保護者対象進路ガイダンスを実施する。 (5)進路だよりを定期的に発行する。	※
生徒指導体制の充実	(1)生徒指導におけるチームワーク力の向上。頭髪服装、交通マナー、アルバイトなどの指導において情報共有し、共通認識を持って当たる。 【活動指標】 生徒指導、学年団との情報共有会議。 【成果指標】 頭髪の新基準等の生徒への浸透状況および教員の達成感の向上。	◎
生徒会と保護者・地域との取組	(1)VIVA松商を実施し、PTA役員・総務部・生徒会顧問・生徒会執行部役員が集結し、松商の学校生活等について協議する。 (2)地域から要請のある活動に、生徒を積極的に参加させる。 【活動指標】 ①VIVA松商を1学期の期末テスト中に実施し、情報を共有し、学校活性化につなげていく。 ②校外活動(清掃活動等)への参加。 【成果指標】 ① VIVA松商提案事項2つ以上 ② 年間校外活動2回以上	※ ※

保健部活動	<p>(1) 生徒の気持ちに寄り添い、望ましい学校生活を送れるように支援する。</p> <p>(2) 保健に関する情報提供と健康増進のための情報発信。</p> <p>(3) 健康診断と救急処置及び日常的保健指導。</p> <p>(4) 心身の健康教育と、教育相談による心のケアの充実。</p> <p>(5) 特別支援の必要な生徒の情報共有と支援活動。</p> <p>(6) 校内の環境美化活動。</p>	◎
人権教育研修	<p>(1) 教職員の人権意識を高めるため、現職教育の開催や校外研修への積極的な参加を促進する。</p> <p>(2) 人権教育の視点から公開授業をおこない、取り組みを通じて教職員の指導力の向上を目指す。</p>	◎
学校図書館の情報提供	<p>(1) 各教科との連携をはかり、学習活動につながる教育支援の充実に努めます。</p> <p>【活動指標】「図書館だより(教職員向け)」の発行、図書館利用につながる案内とサービス。(資料提供、レファレンスサービスの充実)</p> <p>【成果指標】「図書館だより(教職員向け)」(年6回程度)、必要に応じた案内とサービス(随時)</p>	◎
組織力向上 保護者・地域住民等との連携	<p>(1) 情報ビジネス科の授業で受験させる検定を一覧表にまとめ、全教職員に配布する。「全員受験」か「希望受験」かを明確にし、クラブ顧問をはじめ全職員の協力を得られるように努める。</p> <p>(2) 国際教養科在籍生徒の学力向上の組織構築のため、国際教養科委員会を定例化する。</p> <p>(3) 情報システム科の各種検定・国家試験等の日程や計画を明確にすることで、保護者と連携した教育活動をおこなう環境づくりに努める。</p> <p>(4) 情報ビジネス科、国際教養科において、小中学校や大学・専門学校との連携により、生徒に幅広い教育機会を与える。</p>	※